

シヤンティ

shanti

2010
夏
7月号

特集
あなたの知らない
ミャンマー(ビルマ)難民

手を、とりあうこと。

私たちは向き合います。苦難の中にいる人々と世界に。



社団法人 シヤンティ国際ボランティア会



1.おはなし大会開会式
2.図書館活動のための教材を視察する
ナット・ブンラン教育省次官
3.エプロンを背景に演じる人形劇(エ
ロンシアター)
4.「おおきなかぶ」の劇
5.おはなし大会の審査員たち

カンボジア 第15回全国おはなし大会 プロジェクトの風景

a Scene of
Our Project

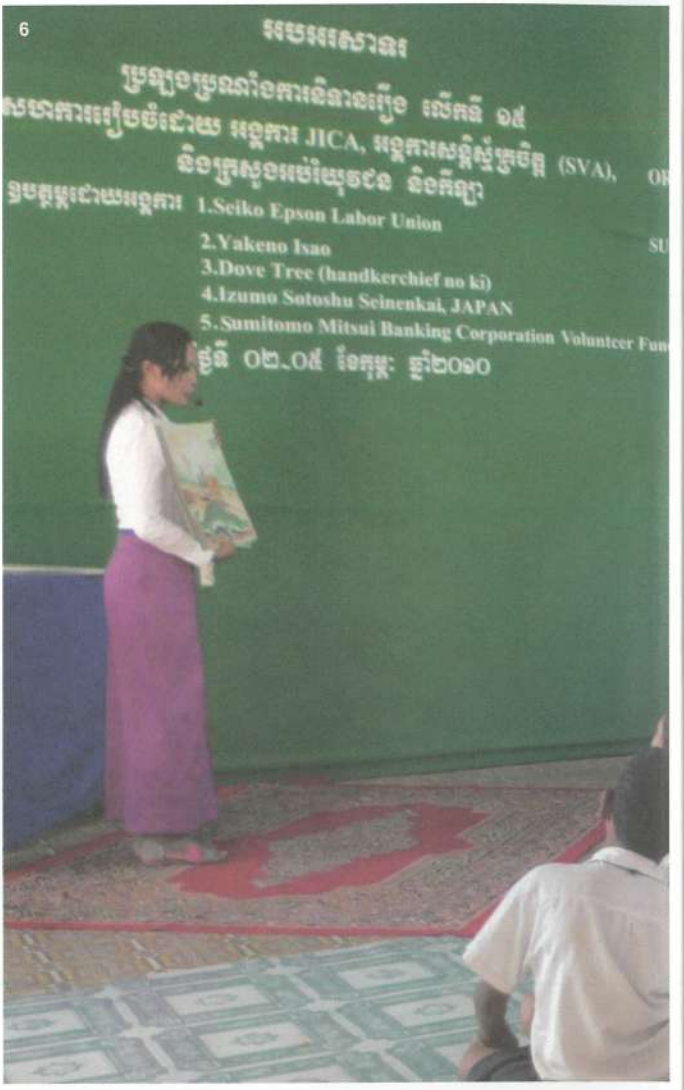


6.子どもの前で演じて審査を受ける教員たち
7.素話部門1位「リンゴを食べたかったウサギ」
8.紙芝居部門1位「白いネズミの王様」
9.絵本部門1位「シカとさる」
10.人形劇等部門1位「オオカミと3匹の子ヤギ」

「全国おはなし大会」とは、おはなし活動の普及を図るため、全国11州から6人ずつ選ばれた図書館員(教員)が絵本、紙芝居、素話、人形劇の4つの部門にわかれ、それぞれのおはなしの技を競うものです。

2月2日から5日にかけてシエムリアップ州の教員養成学校でSVAとカンボジア政府、国際協力機構(JICA)が共同で主催し、各州の図書館活動成果の展示とおはなし大会が開催されました。

付属小学校の児童を前に準備してきたおはなしをし、審査員の厳しい審査を受けて、各部門の1、2、3位が決定されます。



6.子どもの前で演じて審査を受ける教員たち
7.素話部門1位「リンゴを食べたかったウサギ」
8.紙芝居部門1位「白いネズミの王様」
9.絵本部門1位「シカとさる」
10.人形劇等部門1位「オオカミと3匹の子ヤギ」

今年度はSVAの図書館事業の対象地となっているシエムリアップ州が紙芝居部門の1、2位を独占。1位になったソー・サラム先生、「SVAの研修を受けて、この3年間子どもたちにおはなしをしてきた努力が実りました。」一着目を浴びたのは、人形劇等部門1位、バットンバン州ノーン・チェンダー先生の凝った人形劇「オオカミと3匹の子ヤギ」の舞台。

おはなし大会は毎年、新たなアイディアを生み出し、披露し、共有する場となっています。

(カンボジア事務所 手束耕造)

巻頭言

道 みち

カレン人から助けられた日本人 その過去を忘れない

海外事業課長 なかはらあき
中原亜紀

「私の祖父は日本兵に殺された」「日本人はカレン人に多くの弾圧を行ってきた」。ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ事業に携わっている間、多くの難民たちからこんな声を直接

聞かされた。

1886年、イギリスはミャンマー(ビルマ)を植民地した。イギリス統治が進む中、イギリスはカレン人を利用して植民地行政を行っていった。太平洋戦争で日本軍はビルマ独立義勇軍を引き連れてイギリスを追いつ出し、日本による新たな統治を始めたが、イギリスのスパイだとレッテルを貼られたカレン人は、日本軍として日本側と共に戦ったビルマ軍から虐待などを受けることになった。イギリス分割統治時代に官憲だったことから、多くのビルマ人に恨まれた結果が背景にあった。それにも関わらず、日本が敗戦した後、

多くの日本軍が敵対にあつたカレン人に助けられたという。

難民キャンプでの活動に携わるようになり、日本人とカレン人の歴史を初めて知り、「縁」を感じずにはいられなかった。今を生きる日本人として過去の歴史を受け止め、カレン人に出る限りの力添えをするのが彼らへの償いになるのではないかと考えた自分がいた。

日本軍の生き残りとしてミャンマー(ビルマ)からタイに渡り、国境の町メーソンツトで暮らしていた中野弥一郎さんから、カレン人の話を聞かせてもらう機会に恵まれた。敗戦後、イギリス軍から身を守っても

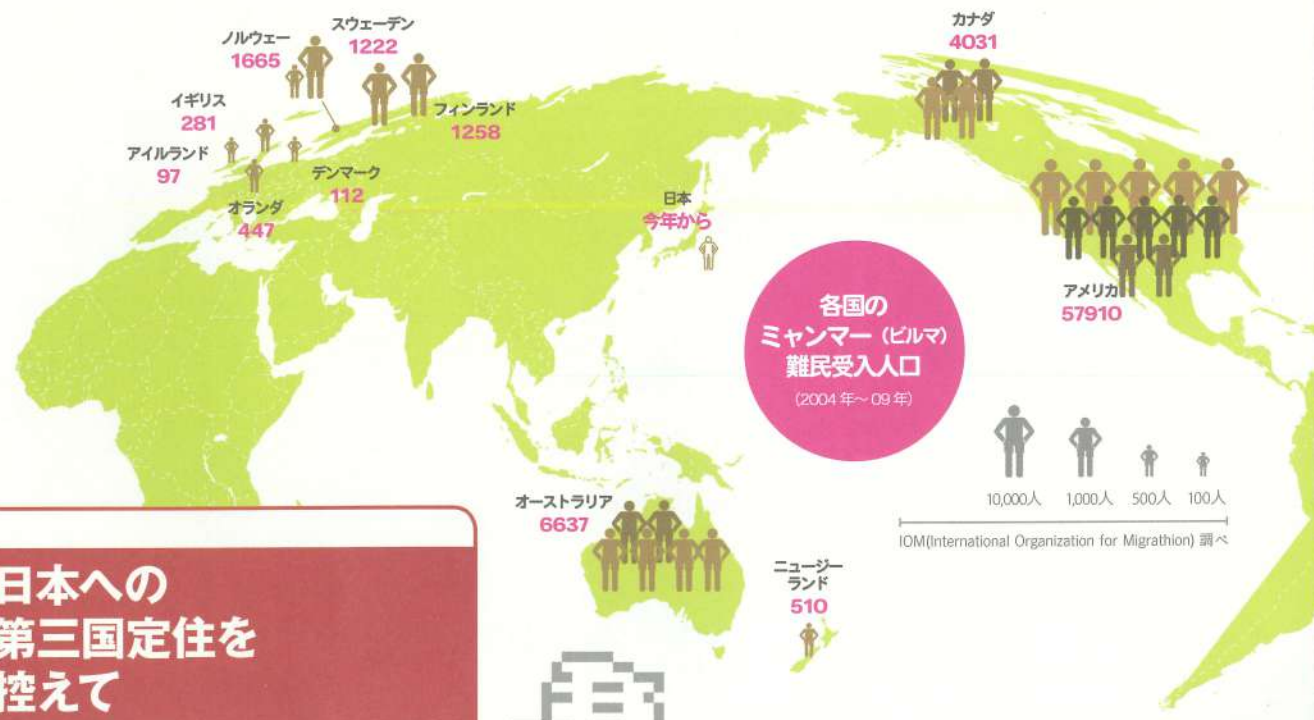
らつたカレン人の懐の広さ、優しさなどをとても嬉しそうに語っていたのが印象的だった。

「私は彼らに恩があります。たくさん日本人がカレン人に助けられました。だから日本人がカレン人のために活動がされているのは本当に嬉しいですね。」ミャンマー(ビルマ)難民キャンプでのSVA活動を聞いて、こう話してくれた中野さんは、昨年10月に90歳で亡くなりました。

歴史は忘れられてはいけない。また活動を通じて日本人とカレン人の歴史をしつかりと受け止めていく必要があると思う。

[SVAの使命] 私たちは、地球上の貧困や戦争、内紛、環境破壊、災害などによって苦しむ人々のそばに立ち、苦しみを分かち合い、その人々と共に解決のための活動を行います。特にアジアにおける教育・文化活動を通じて、「共に生き、共に学ぶ」ことができるシャンティ(平和)な社会の実現をはかります。

Cover Photo
急斜面を開いた畑で農作業をしている難民たち。山の中にあることが多いキャンプでは農地は貴重。(ウンビナム難民キャンプ)
写真:渋谷敦志



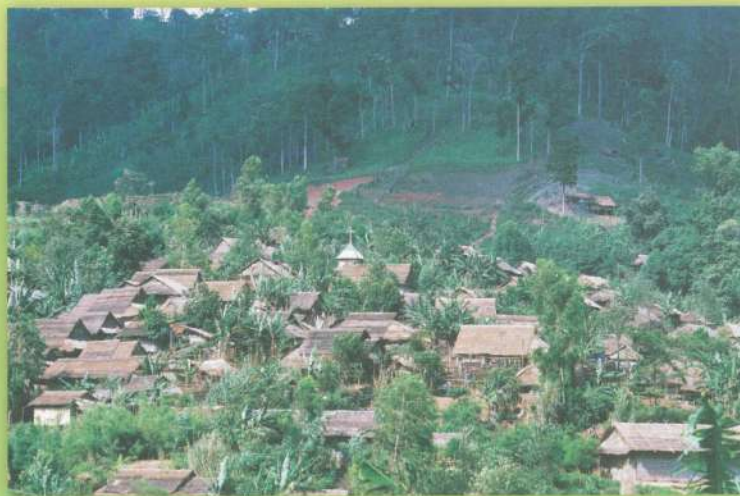
日本への第三国定住を控えて

1970年代にインドシナ難民受入れの経験を持つ日本は、タイの難民キャンプから3年間試験的にミャンマー(ビルマ)難民を受入れることを発表しました。

第三国定住プログラム。耳慣れない言葉ですが、難民問題の解決策のひとつです。祖国ミャンマー(ビルマ)への帰還も、避難したタイへの定住も難しいため、それ以外の第三国に定住する政策を指します。

定住受入国(上図参照)の社会文化は、ミャンマー(ビルマ)難民とは大きく異なるため、それぞれに適応のための相当な努力が求められます。カルチャーショックも異なりますが、一般に若い世代の方が新しい言語を獲得して社会に溶け込みやすいと言われています。

難民の人びとは日本語研修や職業訓練を経て日本社会へ。SVAも困難に立ち向かう彼らのよき理解者でありたいものです。(小野豪大)



あなたの知らない

Myanmar (Burma) Refugees

ミャンマー(ビルマ)難民



難民キャンプの入口で検問を受ける。内務省の許可がないと立ち入りは許されない。

建ったばかりの小さな家。配給された竹などで作られている。最低限の家財道具が見え隠れしている。

1 どのような生活をしているの??

朝、子どもたちは学校へ行き、午後3時ごろには帰宅。放課後は外で遊んだり、図書館に絵本を読み来たりします。

大人が働けるのは、キャンプの自治組織、自営業、NGOなど限られた仕事です。職業訓練学校で語学や裁縫を習う人もいますが、ほとんどの大人は職がなく家の周りで1日を過ごしています。



? 難民キャンプってどんなところ??



1984年、ミャンマー(ビルマ)で政権や軍に迫害された人たちが、難民としてタイ側に逃れてきてから、25年がたちました。難民がミャンマー(ビルマ)へ帰国するめどはまだまだにたらず、新たな生活を始めるため、外国へわたる第三国定住を選ぶ人もいます。日本政府は今年からミャンマー(ビルマ)難民を受け入れを決め、9月に30人の難民が来日します。キャンプからの難民受入れは、アジアでは日本が初めて。私たちは日本のNGOで唯一、現地に事務所を構え、キャンプで活動しています。祖国に帰れない難民の暮らしを身近に見て、感じたこと、考えたことをみなさんにお伝えします。

2 日用品はどのようにあるの？

最低限の食糧や日用品は配給されますが、それ以外の物は自分で購入しなくてはなりません。貨幣経済が機能し、雑貨店や食堂もあります。キャンプ内で働いたり、第三国へ定住した家族からの仕送りでお金を得る人もいますが、収入が無く避難したときの蓄えを切りくずして暮らしている人もいます。



配給される炭と七輪を使って、煮炊きをする。



配給用の米の倉庫。キャンプ委員会が計量したり、配給の準備をしている。

3 どんなものを食べているの？

民族によって食べるものが違うので、配給される米、大豆、フィッシュ・ペースト、砂糖、乾燥唐辛子、塩、食用油のほか、各自で肉や野菜を購入して、料理します。主食は米、豚の脂身は「ごちそう」です。



カレン料理。右から時計回りに、ごはん、マイタケに似たきのこのスープ、きゅうり、卵焼き、かぼちゃの煮物。あっさりした味つけて日本人にも食べやすい。



スイカは日本のものより小ぶり。

5 水道はあるの？

水道は引かれていないので、共同の水場からポリタンクに入れて運びます。キャンプは家が密集しているので、火事が起ると広がります。初期消火用にビニール袋に水をためて軒下にかけています。



重い水を家まで運ぶのは重労働。



くんできた水を台所に置いておく。



「タナカ」木の粉を水で溶いて顔に塗る。ヒヤッとして気持ちがいいのと、日焼けどめとして、ミャンマー（ビルマ）では広く使われている。

4 着る物はどのようにあるの？
学校の制服や普段着は NGO によって支給されています。普段は民族衣装を着ていますが、糸を調達し、布を織り洋服を仕立てることもあります。



雨のときはもちろん、暑さよけとしても活躍するのが傘。NGOが団体名を入れて配ったりもしている。



軒先にビニール袋で吊してある水は防火用。

6 学校はあるの？

幼稚園、小学校、中学校、高校があります。例えば、小学校では英語、カレン語、ビルマ語、地理、算数、保健などを教えています。週に1度、手芸、音楽、絵画など特別授業もあります。成人は、教員養成学校で学んだり、職業訓練学校で農業や洋裁を学ぶことができます。



校舎も支給された竹で作られている。



昼食の時間なので、児童が家に帰るところ。



図書館では伝統楽器や舞踊を伝える教室も開いている。



7 キャンプの外には出られる？

外出にはタイ政府の許可が必要で、自由に外に出ることはできません。農繁期に日雇い労働をしに行く人もいますが、ごく少数です。SVAの教員研修や交流事業のため、別のキャンプへ行くことは許可がありますが、例外として認められている状態です。



荷物運び用のバイク。高価なのでめったに見られない。



学校にはってある手洗いのススめ。



「うまれたてのいろ」（小峰書店）にカレン語の翻訳文を貼ったもの。日本から届いた絵本は図書館で読める。



図書館には、大人向けの本もある。



使えなくなった絵本のカバーが、図書館の飾りに。



職業訓練所。ミシンを使った縫製指導もしている。



欧米の NGO が運営している病院。



義足製作所。国境を越えるときに地雷で足を失った人のために義足をつくっている。

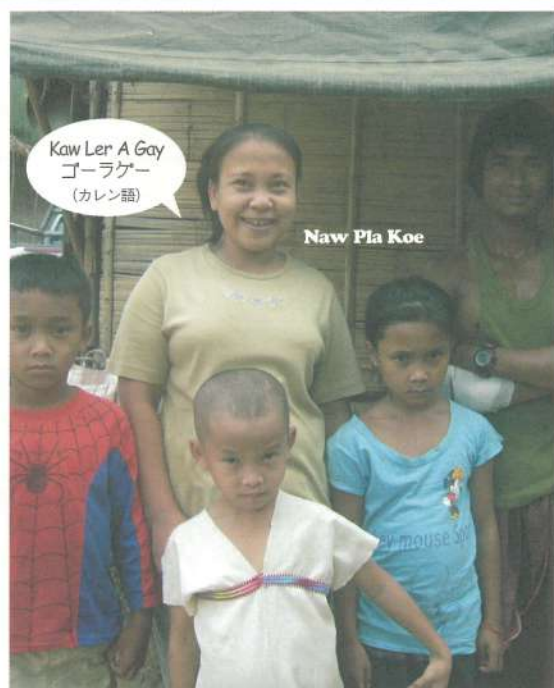
8 どんな NGO が活動しているの？

キャンプ内で18の NGO が「衣食住」「医療・保健」「教育」の分野に分かれて活動しています。食糧や物資の配布、住宅資材提供、学校教育、職業訓練、図書館を運営している団体などがあります。医療、環境、レクリエーションの支援まで活動内容は多種多様です。



難民キャンプの人びと

カレン人が多い難民キャンプですが、少数民族への弾圧の高まりから、さまざまな民族の人が避難してきています。新難民と呼ばれる難民登録を受けられない人の増加も懸念材料です。



Kaw Ler A Gay
コーラケー
(カレン語)

Naw Pla Koe

Naw Pla Koe | プラ・コ
カレン人・30歳・1997年からタムキンキャンプ在住

- 家族構成……5人
本人/夫(30歳)/長女(10歳)/長男(8歳)/養女(5歳)
- 昼食……白米、野菜スープ、唐辛子(調味料)、魚か牛肉か豚肉をとときき食べます。

私がタイ国境近くの村のおじの家を訪ねていた時、ミャンマー(ビルマ)軍が村を襲ってきたのです。おじの家族と一緒にその村から逃げ、タムキンキャンプにやってきました。村はミャンマー(ビルマ)軍に占拠されてしまったので、もう村には戻ることができませんでした。



Ma Nge Ra Ao
マネラオ
(モン語)

Ming Ga La Ba
ミンガラバー
(タヴオイ語)

Aung Moo

Aung Moo | アウン・ムー
タヴオイ人・31歳・2004年からバンドンヤンキャンプ在住

- 家族構成……3人
本人/妻(モン人26歳)/長女(3歳)
- 商店で買う物……食材、野菜、乾燥魚(ドライフィッシュ)、卵

ミャンマー(ビルマ)軍がタヴオイ郡の村を攻めてきて、その時に家族でタイ側のサンカブリ郡(カンチャナブリ県)に避難し、難民を保護する国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) に難民申請をしました。それでバンドンヤンキャンプに移されたのです。



Ta Re Ba Na
タラバナ
(カヤン語)

Tabora Regina

Tabora Regina | タボラ・レジナ
カヤン人・42歳・2008年からウンピナムキャンプ在住

- 家族構成……6人
本人/長男(17歳)/次男(15歳)/長女(13歳)
次女(8歳)/夫(45歳・アメリカ在住)
- 朝食……お茶、ビルマ風のパン、チャーハン

夫は1988年の民主化運動時にトンジー大学の学生で、ストライキに参加しました。それで2003年にメーソットに逃れ、キャンプに入ったのです。私たち家族は2008年に夫を追ってキャンプにきましたが、難民申請が通っていないので、難民登録していた夫だけが2009年アメリカへ第三国定住しました。



Vannakam
ヴァンカム
(タミル語)

Maw Aung
ナイ・ウー

Maw Aung Nai Oo | モー・アウン・ナイ・ウー
インド系ビルマ人・ヒンドゥー教徒・25歳・2009年からウンピナムキャンプ在住

- 家族構成……8人
本人/おば2人/いとこ4人/姪(2歳)
- 昼食……白米、カレー(宗教上、豚や牛は食べられません)

村で農業をしていましたが、収穫するとミャンマー(ビルマ)軍に奪われてしまうことの繰り返し。父が兵士に殺されてしまい、お葬式で村に帰ってきたおばさんを頼って2009年6月難民キャンプにきました。おばさんは前からキャンプで小物売りをしていたので、いまはその店を手伝っています。ヒンドゥー教を信仰しているのはキャンプの中では少数派。しかし、みんな信仰心が厚く、私も寺院に行ってお参りしたり、お手伝いをしています。

数字で見る難民キャンプ

13万8029人

難民キャンプの人口。*1
未登録者を含む食料配布受給者

61%

難民キャンプ内に暮らす
カレン人の割合

4.5~7m²

1人当たりの居住面積。
4畳半は約7.3m² *1

55%の人が無収入

44%の人が

2000パーツ未満の収入がある

10万4932人

難民として登録されている人口。
うち1万9314人が5~11歳 *2

48% スコー・カレン語

62% ビルマ語

各言語話者の識字率 *3

出典:

- *1・2010年3月 TBBC調べ
- *2・2010年3月 UNHCR調べ
- *3・2010年 ZOA調べ

難民を生み出している 構造的問題と 私たちの役割

1 886年から続いたイギリス植民地時代のカレン人等を優遇した統治政策、太平洋戦争時の日本軍のビルマ族支援、1948年から現在まで続くカレン州の自治権を求めたカレン民族同盟(KNU)の武装抵抗闘争等。タイ国境におけるミャンマー(ビルマ)難民問題は、歴史の産物です。

ビルマ政府軍によるカレン人に対する攻撃は、民間人に対する殺人、略奪、強制労働、性的虐待、強制移住などに及び、多くの国内避難民を生み、1984年に初めて難民がタイへ流入しました。また、各地で少数民族に対する弾圧が激化し、タイ国境へ難を逃れる人も増えました。

一方、軍政は1990年の総選挙で圧勝した国民民主連盟(NLD)



上/ヤンゴン市内 下/ヤンゴン郊外にて



も大規模に弾圧。学生メンバー多数も越境することになりました。ミャンマー(ビルマ)には40万人以上の国内避難民がいるといわれています。一方、タイに流入した難民は13万人(2010年3月現在)。第三国定住で7万人が出国しましたが、同じ数の国内避難民が入ってくるので、ここ数年難民数はあまり変わっていないという事実があります。また、各難民キャンプの多様な人口構成は少数民族及び民主化勢力に対する弾圧の所産とも言えます。

今年、軍政は10年ぶりの総選挙の実施を公言しています。2008年国民に承認させた軍政寄りの新憲法、アウンサン・スーチー氏が率いたNLDの選挙不参加と解党など、政治状況は国内避難民・難民問題の解

決どころか、悪化の方向に進む懸念を強く感じます。

タイ政府は2005年以降、難民認定審査を中断しています。2009年に4キャンプで試験的に登録予備審査が再開しましたが、その後の進展はありません。難民は第三国定住への応募要件である難民登録を満たせず、難民キャンプで待機するのみとなっています。タイ政府は難民登録を進めれば、難民のステータスを求める越境入国者が増えることを恐れているようです。

日本政府が第三国定住難民の受入に乗り出したことは一定の評価に値します。日本社会が不況にあえぐ中、新しい国民を迎え入れ、労働や教育の保障もやるのですから、相当の覚悟が必要でしょう。

同時に、私たちは独自に日本に入国して難民認定を申請する「条約難民」が存在することも知るべきでしょう。年間千人を超える難民認定

申請者数は、その半数がミャンマー(ビルマ)人なのです。強制退去、拘留といた対応に怯えながら、日本で難民認定されるのを待つ人です。

しかし、難民が究極的に望んでいるのは「身の安全が保障され、本国に帰還できること」です。その兆しが今は見えないとしても、日本政府がミャンマー(ビルマ)軍政に対して主導的に政治的解決を促す可能性もあるはず。民主化の動向が更に不透明さを増す中、国境の少数民族問題、国内避難民・難民問題こそ、あえて国際問題という視点から根本解決を提案してほしいものです。

SVAは、こうしたミャンマー(ビルマ)難民問題を多面的に理解し、日本社会でも、難民キャンプでも、ミャンマー(ビルマ)国内でも(将来的に、常に彼らの傍で応援し続けま

(小野豪大)



- P6~9 インタビュー・写真
ジラポン・ラウィルーン(通称セイラー)
SVA歴9年のベテラン。研修の指導が得意。メーソット事務所ではスタッフのまとめ役。
- P10 ナンタナー・チンカジョン(通称トー)
今年カンチャナブリ事務所からメーソット事務所に異動。得意の仕事を生かし、図書・教材部門を担当。
- P5・8・9 コラム
小野豪大 ラオス、東京を経て、3年前からメーソット勤務。過去にインドシナ難民に関わった経験を生かして奮闘中。

カンボジア
Cambodia

シエムリアップ州での
3年間の事業終了

2007年よりJICAの「草の根技術協力事業」としてシエムリアップ州で3年間実施してきました「小学校での図書館活動普及のための人材育成事業」が2010年3月で終了しました。教育省担当官の育成、シエムリアップ州の中心校57校で図書館活動が普及されることを目

指した本事業では、教育省州教育局、学校校長、図書館員、SVAスタッフが良好な連携関係を築き上げ事業運営にあたりました。

事業開始前は図書室があっても鍵が閉められ、古くならなかった教科書、机、椅子の保管場所として使用されている学校が多くありましたが、3年間の研修会とモニタリングを通じた技術指導により、事業終了時には全校で本来の機能を備えた図書室として多くの生徒に利用されるようになりました。また、図書館活動も行われるようになり、事業開始前は42%だった読み聞かせ活動が、事業終了時には98%になった他、図書館員が56人から68人に増員されました。



シエムリアップ事務所前で記念撮影



備品譲渡契約を交わすシエムリアップ州教育局長と手塚スタッフ

全ての学校で、図書室利用率が増えたことで、児童の生活態度や授業態度に良い変化があったとの結果も出ました。また、本事業で作成した図書館活動教員マニュアルは全対象校へ配布された他、全国の州教育局、教員養成学校、教育省関係部局へも供与され、今後は教育省の教材としても活用されていく予定です。

2010年3月からはタイ国境のバンテイミンチエイ州で新事業を開始しています。

(鈴木卓子)

タイ
Thailand
奨学生の教育への強い思い



ケムトーンさんの生活は楽ではない

5月の奨学金授与式に向け、奨学生を選考するための家庭訪問をおこないました。子どもたちと直に接して、ひしひしと感じるのは勉強をしたいという強い想いです。

ミャンマー(ビルマ)国境沿いの地域に生活するカレン人のケムトーンさんもそのひとり。彼女は高校2年生の17歳。両親とも学校教育を受けてきておらずタイ語を話してきませんでした。そのため、父親は日雇いの農業労働をタイ人より低い賃金で続けています。母親は重い病気にかかり、ほとんど動けない生活となりました。

ケムトーンさんは、母親の看病、小学5年生の弟の世話から家事全般、さらにアルバイトまでこなす家族の柱です。それでも奨学金を受け、勉強を続けようとする彼女の姿に胸を打たれました。

こういうケースの子どもたち

ちに多く出会うと、どうして頑張れるのだろうか、その忍耐力と健気を不思議に思うことがあります。しかし「自分の人生を変えたい。親に幸せになってほしい」というのは彼らにとって切実で大切な想いなのです。

ケムトーンさんに将来の夢を聞くと、ゆっくりと、そしてはつきりと答えてくれました。「看護士です。お母さんの面倒をみてあげられるから」と。隣のお母さんには、タイ語が分からなくてもその言葉が通じているように見えませんでした。

彼らが強く想いを抱いている限り、その夢が叶えられるよう、私たちスタッフも努力していかなければと新たに身を引き締める思いの家庭訪問でした。

(ビヤマット・ナトシクル)

ラオス
Laos
図書館活動の効果について聞き取り



教員から聞き取りをするヴィラスックスタッフ (左)

海外事務所では、どのように事業を進めていくかを決める事業「計画作成」に始まり、計画した「活動の実施」、その活動の結果を明確にして今後の活動の展開を導くための振り返りとして行う「評価」の3工程からなっています。

この5月、都市部から離れた地方・農村部の子どもたちにも読書の機会を提供するために、長年に渡って行ってきた図書配布活動の評価を行いました。

評価には、私たちが行ってきた活動が今どうなっているか、現実のありのままを知る事が必要になるので、質問を受ける教員や児童たちからは、そう簡単には「ありのまま」が引き出すのは難しいようです。

「評価」という言葉を聞いた途端に教員と児童は緊張してしまいがち、この上ない優良な回答をしようと思ってしまうのです。そんな緊張をほぐすために世間話から質問へ入り、手を変え品を変え必要な情報を得ようと焦るスタッフの気持ちをよそに、陽はどんどん傾いていくのでした。

道路事情や時間の制限で行けなかった学校、出来なかつた質問も若干残りしましたが、木陰で砂埃にまみれながら、教員や児童たちと一緒に過ごした時間に書くことができた色々な事を書きつづけたノートを読み返してみると、それらの行間には意外にも教員や児童たちの「ありのまま」があったのでした。

(鈴木卓子)

ミャンマー(ビルマ) 難民
Myanmar (Burma) Refugee Camps
伝統文化教室
夏期コースを実施中



マンドリンのクラス

コミュニティ図書館では、2006年から伝統楽器や舞踊などを学ぶクラスを開催してきましたが、最近では、学校の夏期コースと提携しています。タナキクロ(琵琶)、トートウ(バイオリン)、カナ(ウクレレ)、マンドリンなど、主にカレンの伝統楽器や伝統舞踊ドンドンスを学んできましたが、最近では文化や芸能の表現に富んだポーカレン語も学習しています。

ウンピアムキャンプでは、4月5日にコースを開設、登録学生は7歳から16歳まで810人(男子382人、女子428人)。講師は31人(男性7人、女性24人)となっています。

この伝統文化教室夏期コースの目的は、①自分たちの文化と伝統を維持する、②他者の文化と伝統に関心を寄せる

子どもに学びの機会を与える、③子どもに有意義な余暇活動を提案する、の3つです。伝統楽器、伝統舞踊、言語など10教室で、複数のクラスに登録できるので、最高で3つのコースを受講している子どももいます。

開講以来、土日や祝日を除いて毎日続いた教室も5月17日に閉講し参加した子どもたちは、学習の成果を発表し、修了証を受け取りました。

子どもたちの「伝統離れ」が心配されますが、私たちは大人がリーダーシップを取って指導していけば子どもは必ず関心を寄せてくれると思っています。今後も、この活動応援して下さる方々の助言を受けながら、各キャンプの難民委員会がより主体的に実施できるようにサポートしていきます。

(シラポーン・ライウィル)

アフガニスタン
Afghanistan
絵本、紙芝居の出版準備進む



2009年度の出版絵本を手に喜ぶ子どもたち

今年度6タイトルの絵本、2タイトルの紙芝居を発行します。大学教員、作家、教育局職員で構成される出版委員会の協力を得ながら、主にアフガニスタン(以下アフガン)の民話に基づき絵本を制作しています。

まず、スタッフが農村部に赴いて長老から民話の聞き書きをします。これまでに430話を収集しました。

次に、どの民話を絵本にするかを出版委員会に選定します。選ばれた民話を子ども向けの絵本としてわかりやすく、かつおもしろく再構成します。それからカプール在住のイラストレーター兼作家2人がプロット(各頁の大きな下絵)を作成。出版委員会の助言を得て、プロットを改善したのち、絵を作成。そして、絵と文章の構成、文章

が児童向けになっているかをチェックして最終版を完成させます。最終版を教育省に提出し、検閲を経て出版、配布の許可を取得します。印刷は首都カプールで行っています。

絵本は、アフガンの公用語であるダリ語とパシトゥン語で各600部、紙芝居は各100部印刷します。今年度の事業が完了すれば、2003年の事務所開設以降、絵本を54タイトル、紙芝居を12タイトルを発行することになります。アフガン人による絵本出版をこの規模で実施しているのは、SVAの他には、1団体しかありません。一方、絵本、紙芝居の質は高いといえず、作家、イラストレーター、編集者の育成が必要とされています。

(三宅隆史)

**そのとき、ホントに大丈夫？
～災害に備えて私達ができること～**

9月1日は関東大震災が起きた日「防災の日」です。87年前に起きた大災害で10万人以上が亡くなりました。当時の記憶がある方も少なくなっていますが、一方で地球にとって100年くらいは、ほんの一瞬のこと。次の大災害はいつ起きてもおかしくないとされています。

SVAでは、15年前の阪神淡路大震災をきっかけに災害への取り組みを始めました。普段は「防災寺子屋」という、地域を歩き災害について話し合うプログラムを行っています。キーワードは「自分たちに出来ることから」と「顔の見える関係づくり」です。

すぐに出来ることは「災害用伝言ダイヤル」について家族や友達で話すことです。災害時に電話が不通の時、互いに安否確認がとれる「伝言」のしくみです。このサービスの電話番号が「171」ということや、定期的に体験利用が出来る(毎月1日、8月30日～9月5日など)ことはあまり知られていません。詳細はNTT各社の資料やホームページで見つけられます。

東京や大阪などの大都市では、災害時に交通機関が止まって自宅に帰れなくなる人が100万人以上になると言われています。「自分や家族は大丈夫なはず…」と考えたいところですが、現実はどうでしょうか？

SVAでは毎年秋、東京周辺の生協や労働組合、NPOなどと協力し、市民による「帰宅困難者対応訓練」の運営に参加しています。都心の日比谷公園を出発して千葉県や埼玉、神奈川県など各方面にむけて20km前後のコースを実際に歩いてみようというイベントです。家族や友だちどうして楽しみながら「徒歩帰宅」を一度経験してみませんか？

(緊急救援 白鳥孝次)



「帰宅困難者対応訓練」にご家族、友だちと参加してみませんか？



毎月1日は「災害用伝言ダイヤル 171」を体験利用してみましょう。訓練参加者には「いざというとき役立つ」修了証が配られます。

チャレンジしてみませんか？「徒歩帰宅訓練」
日時：9月25日(土) 日比谷公園に集合
予定のコース：千葉、埼玉、神奈川県
集合時間・コースの詳細は決まり次第、HPにてお知らせします
(問) TEL 03-5360-1233 担当：白鳥(しらとり)・薄木(うすき)

**「スマトラ島沖地震被災者支援活動」
が無事に終了しました！**

2009年9月、インドネシアのスマトラ島で大地震が発生しました。SVAでは被災された方々を支援するため、食料や医薬品など救援物資の配布や仮設住居の建設支援(合計102世帯)を行いました。また復興支援として、幼稚園と保育園の補修と再建(各1棟)、職業訓練所の設置(2カ所)のほか、村の図書館新設(4カ所)、既存の図書館への支援(3カ所)などを行い、合計1050冊の本を図書館へ提供しました。今年4月末には全ての活動が無事に終了しました。これまで支えて頂いた多くの方々へ心より感謝しております。ありがとうございました。(薄木浩一郎)



「日本の皆さま、ありがとうございました」
図書館の完成を喜び子どもたち

**「Gallery Shanti (ギャラリー・シャンティ)」
1日だけのクラフト・エイドのお店**

「クラフト・エイド」はカタログやネットショップでの販売が主なため、写真でしか商品を見ることができません。商品を手にとっていただく機会をと、5月12日SVA東京事務所の地下会議室スペースにて、1日だけのお店をオープンしました。

「こういう機会がないと、なかなか事務所まで来る機会がなくて…」という長年のご支援者から、「カタログは見たことがあるけど、実際に商品を見てみたいと心配だったので…」と初めてのお客様にもご好評いただきました。(落合あづさ)



モン族の刺繍タペストリーと刺繍絵本も展示しました。
たっぷりスパンバックの色違いをじっくり選ばれる方も。

**「世界一大きな授業」開かれる
全国で4万人が参加し過去最高**

基礎教育援助の拡充を目的に、SVAも参加した「世界中の子どもに教育を」キャンペーンが4月20日に開かれた。学校に行けない世界の子どもの現状について学ぶ「世界一大きな授業」に、全国の小中学校など351校の4万1940人が参加し、日本での国際協力分野のキャンペーンとしては、過去最高記録となった。

参議院会館では「国会議員のための世界一大きな授業」も開かれ、高校生3人を講師に岡田外務大臣ら21人の国会議員が「生徒」として参加した。(三宅隆史)



世界の軍事費と世界中の子どもが教育を受けるために必要な援助額をリボンの長さで比較。左が岡田外務大臣。

**「本が好きだから…」
お子さんが自分で参加**

仙台市の大沼優希さん(12歳)は、小学校入学前にお母さんと一緒に訳文を貼ったのがこの運動との出会い(とはいっても、このときの記憶はないそうです!)。たびたびSVAの催しにも参加、お友だちとお泊りでも、一緒に絵本作り。2006年には、「チャイルド・ブック・サポーター」に登録。自分で貯めたお小遣いからもご支援くださるようになった、若きSVA支援者です。

最近では、読まなくなった絵本のリサイクルとして、Bセットに参加。「自分が作った絵本を読んでもらえると思うと嬉しいし、作業のときに緊張します。自分も含めて本好き家族。本が身近なので、本がない環境が想像できません。でも、本がないのが普通になっているのかな。自分がそういう状況だったら、つらいかも」と現地の子どものことを考える優希さんです。



企業の社会貢献活動に

大和ハウス工業株式会社(大阪市)では、家族ぐるみで社会貢献活動に取り組めるよう、2007年より休暇の時期に参加くださっています。

大阪本社にお勤めの演元真一さんは、1冊を持ち帰り、お嬢さんの梨香さん(14歳)陽香さん(12歳)と一緒に参加するのは4回目。二人とも幼い頃絵本が大好きだったので、懐かしい絵本にワクワク。「大好きだった絵本が海の向こうの子どもたちに読まれることを思うと、心が繋がったような気持ちになる」と梨香さん。「絵本の内容を話しながら一緒にできるのが楽しい」と陽香さん。

お父さんの真一さん「ボランティアについて日常の会話では話すことはないの、いい機会。特別なことではなく、社会の一員としての意識をもって、こうした活動にも積極的に参加してほしい」とほほえんでいます。

◎問い合わせ
「絵本を届ける運動」担当 佐藤宣子 服部貴子
ホームページ (<http://sva.or.jp/ehon/>) でも
くわしく紹介しています



夏ボラ!

絵本を届ける運動に参加してみませんか？

夏がやってきます。夏休み、目覚めて、「今日は何しようか?」とワクワクするあの気持ちを出します。私たちが元気にしてくれるのは夏の太陽のせいでしょうか。
SVAの「絵本を届ける運動」にご参加くださる方が増えるのも夏です。新しいことに挑戦して、一皮むけた新しい自分になるのもいいですね。
お気軽にご参加いただける国内のプログラム「絵本を届ける運動」に参加くださっている方を紹介いたします。



お寺、地域の人と一緒に

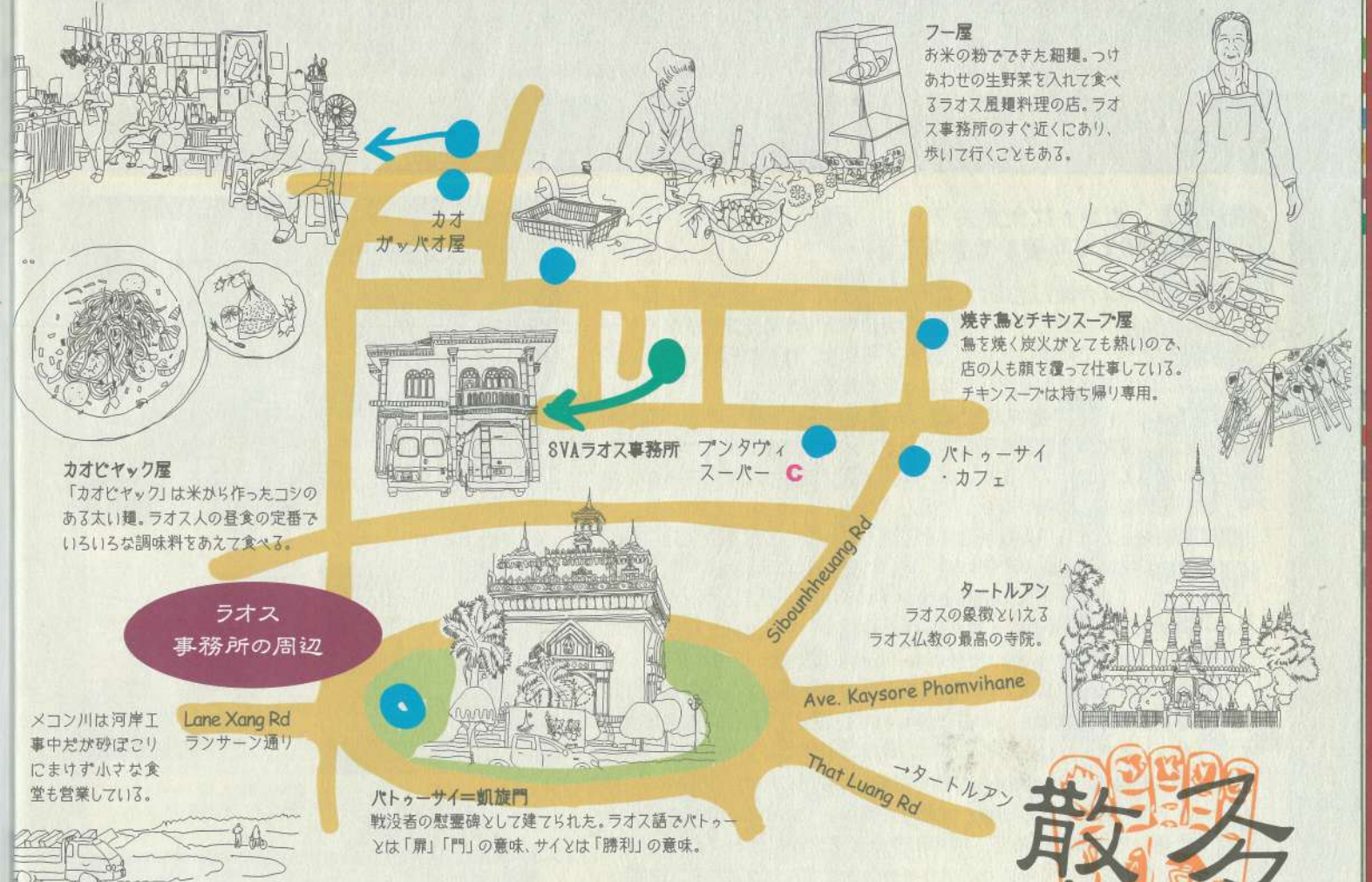
長谷寺(上田市) 副住職、宮下俊哉さんは、「お寺・檀家に限らず、広いつながりを」と、2009年に「ほここネット」という団体を設立。子どもから60代までの会員30人が、月に1回集い、難民や貧困、異文化について学習しながら、上田地域でのボランティア活動と「絵本を届ける運動」に参加しています。

お寺を会場にしたり、社会福祉協議会と共催して、一般の方に参加を呼びかけることも。中高生50人が参加したとき、「学習会で難民について説明したら、悩みを持つ高校生の視野が広がったり、勇気ももらったりしたようだ」と手応えを感じていました。

「これからも楽しく無理のない活動を心がけながら、地域と世界、双方向で学びあえる機会を共有していきたい」と今後の夢を語ってくれました。



「うさぎのみみはなぜながい」
(福音館書店)



フー屋
お米の粉でできた細麺。つけあわせの生野菜を入れて食べるラオス風麺料理の店。ラオス事務所のすぐ近くにあり、歩いて行くこともある。

焼き鳥とチキンスープ屋
鳥を焼く炭火がとても熱いので、店の人も顔を覆って仕事している。チキンスープは持ち帰り専用。

タートルアン
ラオスの象徴といえるラオス仏教の最高の寺院。

多岐の散歩道

発展と伝統と

文・写真
伊藤解子



ヴェンチヤンには、コンパクトな住みやすい街である。その街でお気に入りなのが、メコン川を背に、大統領府から凱旋門（パトゥーサイ）まで一直線に伸びるランサン通りと毎日通勤で通るパトゥーサイ公園。綺麗に整備された公園は、夕方になると多くのラオス人がジョギングやウォーキングをする場となる。日中の暑さの中、バイクや車を使ってほとんど歩くことがないヴェンチヤン市民にとって、ヘルスコンシヤスな人々の憩いの場。ただ、毎年GDP成長率6〜7%増の勢いで経済成長を続けるラオスでは、マイカーの所有が増え、交通事故も増えている。公園の周りの通行車輛の量も多く、「排気ガスの中、健康どころか病気になるかもしれない」という意見もある。

最近、冷房の利いたコンビニ・チェーンも増えているが、市民の台所は今も「市場」。A B 私も生鮮食品は市場に行つて、ラオス語の練習がてら値段交渉して購入している。人々は、早朝仕事に来る前に買い物終わらせているようだが、こちらは週末にのんびり、選べる物色するのも楽しい。

生鮮食品以外の調味料、トイレタリーなどは、事務所近くのスーパーCで調達する。これらはラオ

ス内で生産されておらず、タイなど外国からの輸入品がほとんどで高価。そのため週末はマイカーで国境を越え、メコン川対岸のタイへ買い物に行く人も多い。

国境線のメコン川沿いは、現在、洪水防止の河岸工事の真っ最中。多くのゲストハウスが新たに建設され、西洋レストランやカフェが並ぶ川沿いのエリアは、週に一度は出かけてワインを傾ける息抜き場である。D

それでも、やっぱり毎日の楽しみは、事務所周辺にあるこだわり味付けと名物のおばちゃん食堂の、アツアツのラオスの定番料理のランチなのだ。

発展と伝統の間で、うまくバランスがとられている状況に見える現在のこの街。いつまでこの生活が続けられていくのだろうか。

伊藤解子 (いとうときこ)
北海道生まれ。1999年SVA入職。カンボジア担当として、東京⇒カンボジア⇒東京事務所異動。企画調査、緊急救援、海外事業課長を経て、1月よりラオス事務所勤務、現所長。

シヤンティな人たちが Shanti

50
真島明美
Mashima Akemi
ましあけみ

SVAの活動は、様々な労働組合にも支えられています。今回ご紹介する真島明美さんは、連合東京の職員で、さらにSVAが加盟する「東京災害ボランティアネットワーク」(以下「東災ボ」)のメンバーです。組織として個人として、SVAと関わりのある真島さんにお話をうかがいました。

ボランティア活動は楽しくやろう

明るい笑顔とサバサバした語り口、面倒見が良く行動的。そんな真島さんを「頼りになるお姉さん」と慕う人は、職場の外でも多いにちがいない。

ボランティアに関わり始めたのは阪神淡路大震災がきっかけ。労働組合の仲間と被災地に駆けつけたが、初めての経験に充分なことができなかったという思いが残った。

立ち上がった。「よし、やろう」と集まったメンバーは166人。手探りで1年目がスタートした。多様な職業や専門性を持つ社会人のボランティア集団が出来上がったが、災害ボランティアについては、ほとんどのメンバーが「素人」。真島さん自身も仲間とともに研修を受けながら、工夫を重ねてチームを創った。

研修修了生が、次年度の講師役となる仕組みも良かった。去年は教えられたが今年には後輩を育てる側になるのだという意識が、参加者をより引き込んだ。

運営事務局は真島さん1人。大変でなかったかと聞くと「メンバーは進んで自分たちでやってくれた。それがボランティアでしょ」と答える。メンバーの自主性、やる気を保ちながら「ボランティア活動は楽しくやろう」というのが真島流だ。



左の女性が真島さん。2009年夏、SVAのスタッフツアーでカンボジアを訪れた (写真:井上陸平)

応急救護、けが人の搬送方法を学んだり、身のまわりにある物の災害時の活用法を習ったりした。メンバーは毎回が試行錯誤。知識だけでなく、体を使って身につく研修が好評だった。学んだことは講習や「防災演劇」を通じて一般の人たちにも伝えた。

活動の入り口は「防災」だったが、そこから出会いが広がった。障がい者と楽しむパーベキュー交流。そこからメンバーは人に声

をかけ、手を差しのべる感覚を身につけた。全島民が避難を余儀なくされた三宅島噴火災害では、SVAや生協など「東災ボ」の加盟団体と連携して、4年半に渡り避難してきた島民を支援した。

真島さんの原動力は？と聞くと「大勢の人が活動に関わると、それぞれに『気づき』がある。それを持ち寄り活動に繋げることが素敵で楽しいですよ」笑った。

労組には動員力があり、組合員それぞれが社会人として経験を「社会貢献は労組にとつて新しい可能性」と今後を模索している。



『閉ざされた国ビルマーカレン民族闘争と民主化闘争の現場をあるく』
写真・文 宇田有三 (高文研刊)

休みの日は、ちよっと一息...

その反省から1997年、当時上司だった上原泰男さん(現SVA理事)が口火を切った。連合東京の社会活動の一環としてボランティア活動への参加を組合員によびかけ、「連合東京ボランティアサポートチーム(以下VST)」が

変でなかったかと聞くと「メンバーは進んで自分たちでやってくれた。それがボランティアでしょ」と答える。メンバーの自主性、やる気を保ちながら「ボランティア活動は楽しくやろう」というのが真島流だ。

障がい者と楽しむパーベキュー交流。そこからメンバーは人に声をかけ、手を差しのべる感覚を身につけた。全島民が避難を余儀なくされた三宅島噴火災害では、SVAや生協など「東災ボ」の加盟団体と連携して、4年半に渡り避難してきた島民を支援した。

真島さんの原動力は？と聞くと「大勢の人が活動に関わると、それぞれに『気づき』がある。それを持ち寄り活動に繋げることが素敵で楽しいですよ」笑った。

著者の宇田有三さんは18年間、ミャンマー・ビルマとタイ国境にある難民キャンプだけでなく、国内にも深く入り込み、軍事政権国家の実態を取材し続けるフリーランス・フォトジャーナリストである。民主化闘争やSVAが活動を行っているミャンマー(ビルマ)難民キャンプの知られざる現状をこの本にまとめた。

宇田さんはミャンマー(ビルマ)国内避難民を取材した最初の人物でもある。4日間ジャングルの中を歩き続け、そこで遭遇したカレン人避難民に出会った時の思いを語る。「タイ側に逃げ出さないのですか」。この質問に一人のカレン人は「難民キャンプは私たちの土地ではない、どんなに貧しくても、苦しんでも、生まれた場所を離れたくないのです」と答えた。「タイに逃げ出した難民、国内で逃げ隠れる避難民、軍事政権下に生きる人たちが民族ではなく人間として苦しむ」。そんな宇田さんの言葉は心に残る。

難民問題はそこだけを見ても解決には至らない。難民が発生した背景を知ることが何より大事である。この本のタイトルにもあるように「閉ざされた国」であり見えないものがあるという国も多い。これを通じてミャンマー(ビルマ)という国の現状を多くの方に知ってもらえればと願う。

SVAからのお知らせ



を、10月からはスマトラ島沖地震の被災者支援に着手。住民とともに生活再建を進めています。

国内では、昨年3月に就任した代議員とともに、「共感を得る運動体づくり」を目指して各地で集いやイベントなどを展開。チャリティ寄席も50回を超えて全国に広がりました。

運営上の最重要課題として掲げてきた構造的な財政問題の克服については、さらなる改善を進め、事務所／事業レベルの予算立案から執行に至るまで、収益・費用を意識した管理体制を確立させることができました。

2010年度 通常総会を開催

3月27日、真生会館（東京都新宿区）において、2010年度通常総会を開催し、2009年度の事業報告と決算案、新公益法人移行手続きに伴う定款変更案、諸規定案、役員選任案について審議いただきました。

09年度は、各海外事務所が自立運営に向けて大きく一歩を踏み出した年となり、タイでは、自立化に向けて計画策定、組織強化を進めています。

緊急救援では、7月までミャンマー（ビルマ）サイクロン救援事業

す。2010年はその前年として、これまで支え続けてきたアジアの人びと、そして行動を共にしてきた会員や多くの方々とともに、これまでの歩みを振り返り、新たなビジョンを形成していく年としていきます。（事務局長 関尚士）

「公益社団法人」移行に向けて、内閣府への申請作業の流れ

公益社団法人移行に向けて、今後の申請の流れとしては、SVAの各事業（海外事業、緊急救援事業、国内事業）を区分けして詳細に説明する「公益事業区分」の書類、「収支相償計算」(注)を、新会計基準による「予算書」を作成します。この提出書類を揃えた段階で、内閣府に申請する予定です。

SVAの申請窓口は、内閣府公益認定等委員会です。各担当官による書類審査を経て、最終的に委員会での団体認定の審議になります。しかし、本年度は、内閣府への申請件数がピークを迎える状況で、団体の受付から一回目の審査までの期間に約3カ月かかるとの報告もあります。仮にSVAが7月に申請をしたとして、10月頃の審査

開始になるという状況が考えられます。

書類審査の内容に関しても、委員会から詳細な確認、大幅な「定款」一言の修正変更が求められた場合、理事会だけでなく、臨時総会を開催しての修正、確認承認が必要な場面があるかもしれません。

会員の皆さまには、そのような内閣府への移行申請の上で、煩雑な事務手続きが必要なものも含め、ご了解いただけますようお願いいたします。

注：収支相償とは、公益目的事業において、事業にある収益が、その実施に必要な適正な費用を超えてはならないという規定。

（専務理事 茅野俊幸）

人事のお知らせ

（異動）
三宅隆史 アフガニスタン事務所
長兼企画調査室長から、アフガニスタン事務所長兼SAFアドバイザー
（退職）
磯部正広 カンボジア事務所長代行（4月30日付）
川村仁 ラオス事務所長代行（5月31日付）

山形県山形市にいた。都会の子どもの集団生活をしながら、春は畑の開墾、夏はキャンプ、秋は収穫、冬はスキーと四季折々の活動。充実していたが、世界では子どもが学校に行けないことに疑問を感じ20年前にSVAへ。その原点を忘れていないか？自問自答する日が続く。（事務局次長 市川 幸いちか）

児童養護施設に住み込みで、2〜18歳のやんちゃな子どもたちと日々格闘していました。それからインターンでタイに2年間滞在。関わっていたタイの女性織物グループが、クラフト・エイドに商品を提供していて、あらびックリノその時から藤川さんを知りました。（タイ・ミャンマー 元 難民担当 神崎愛子 かんさき あいこ）

大学院で教育分野の国際協力について学んでいました。在学中、SVAのNGO海外研修プログラムでカンボジア事務所へ1ヶ月お世話になったことがきっかけで現在東京事務所でお手伝いさせて頂いています。活動地での体験や当時の感覚は、今も報告書の翻訳などに役立っています。（海外事業課 山至仁子 やましろ ひとこ）

社団法人
シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015
東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
TEL 03-5360-1233
FAX 03-5360-1220
WEB <http://www.sva.or.jp>
E-Mail info@sva.or.jp
郵便振替 00150-9-61724

● 当会へのご寄付は、所得税および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。

「シャンティ」は、FSC 森林認証紙 (SGS-COC-001773) にノンVOCインキ (石油系溶剤 0%) で印刷しています。

ジャンティ

2010年7月1日発行 (1, 4, 7, 10月1日発行) 通巻256号
1985年6月28日第三種郵便物認可

発行所 社団法人シャンティ国際ボランティア会
発行人 若林恭英 / 編集人 関尚士
装丁・レイアウト 矢萩多聞 / 印刷 株式会社大川印刷

定価 550円 (税込)

スタッフのひとこと「SVAに来る前は」

山形県山形市にいた。都会の子どもの集団生活をしながら、春は畑の開墾、夏はキャンプ、秋は収穫、冬はスキーと四季折々の活動。充実していたが、世界では子どもが学校に行けないことに疑問を感じ20年前にSVAへ。その原点を忘れていないか？自問自答する日が続く。（事務局次長 市川 幸いちか）

児童養護施設に住み込みで、2〜18歳のやんちゃな子どもたちと日々格闘していました。それからインターンでタイに2年間滞在。関わっていたタイの女性織物グループが、クラフト・エイドに商品を提供していて、あらびックリノその時から藤川さんを知りました。（タイ・ミャンマー 元 難民担当 神崎愛子 かんさき あいこ）

大学院で教育分野の国際協力について学んでいました。在学中、SVAのNGO海外研修プログラムでカンボジア事務所へ1ヶ月お世話になったことがきっかけで現在東京事務所でお手伝いさせて頂いています。活動地での体験や当時の感覚は、今も報告書の翻訳などに役立っています。（海外事業課 山至仁子 やましろ ひとこ）

編集後記 ■ いよいよ9月にミャンマー（ビルマ）難民受入れが始まります。日本がしっかりと役割を果たせるよう注目していきます。スタッフの経歴は多彩で興味深いのです。私は美術専門学校の講師でした。本当に描きたいものはなにか？自問自答する生徒から、その答えを引き出せたときにやりがいを感じました。編集の仕事に通じるものがあります。（清野陽子 せい の ひろこ）